

平成29年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
教務部	校務の円滑な運営を図る	主任会を通して他分掌との連携を図り学校行事の円滑な運営に努め、学校の活性化を図る。	毎月2回以上主任会を開催する。	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌や学年の先生方の協力により、スムーズな校務の運営を図ることができた。 毎年、追認考査や追認補講を受けなければならない生徒がでているが、その生徒たちは放課後、静かに自学ができるようになった。放課後の時間、もう少し各教科での個別指導も充実できれば追考査での合格者が増えると思われる。 出張等で不在の場合の時間割変更をお願いしているが、先生方の協力で自習もかなり減ったように思われる。今後も協力をお願いしたい。 PTA活動も、保護者の皆様の協力でなんとか円滑に行うことができた。今後も、保護者の協力をお願いしたい。 今年度は教育センターとの連携でアクティブラーニング研修を行うことができた。今後も、引き続き授業改善に努めていきたい。 「朝読」の実施も定着し、図書館も充実してきたように思われる。今後も引き続き、魅力的な図書館づくりに努めていきたい。 毎日の掃除の時間に遊んでいる生徒がみられる。掃除の時間は全生徒・全職員であたるように工夫しなければならない。
		職員朝会の伝達がスムーズに行えるように、白板の工夫をする。	2日分の日程を書き込み、見やすく工夫をする。	3.7	3.8	
		生徒の実態を踏まえ、学期毎の追考査・補講に取り組む。	学年末の追認考査及び追認補講を受ける生徒をなくす。	3.0	3.0	
	授業の充実に努め、学力の向上を図る	行事の精選や時間割の調整・変更をおこない授業時間数の確保に努める。	1単位あたり30時間以上の実施授業時数を確保する。	3.5	3.4	
		シラバスを作成し、より充実した学習活動に取り組む。	年度末までに次年度分と進度表を作成する。	3.0	3.0	
		生徒の学力の実態を把握し、より実践的な授業研究に努める。	公開授業を年間を通して行う。	3.3	3.6	
	生徒の進路希望に対応できるコース制を研究する	生徒の進路希望や実態を取り入れた教育課程を編成する。	7月中旬までに終了	3.5	3.6	
		魅力あるコース制の研究に努める。	年間を通しておこなう。	3.0	3.0	
	PTA・地域社会との連携をはかり教育効果を高める	地域社会及び中学校との連携を深める。	随時	3.2	3.2	
		HP・学校だよりを利用して学校のPRに努める。	随時更新を促す。学校だよりを毎月発行する。	3.2	3.2	
		PTAとの相互理解を深め、活動の活性化を図る	各種行事の参加案内を3週間前に配布する。	3.2	3.4	
	教職員の各種研修・研究を推進し、教育活動の活性化を図る	各種職員研修や報告会を定期的に開催する。	教務、生徒指導、保健相談に関わる研修会を各1回以上おこなう。	3.2	3.2	
		各種研修会と、研修の充実に努める。	学期に1回は行う。	3.3	3.4	
		ICTを利用した指導法の研究に努める。	学期に1回は公開授業を行う。	3.7	3.8	
	読書活動の推進と図書館の充実に努める	「読書の時間」等を通して、生徒の読書量を増やしていく。	毎日「朝の読書」を実施する	3.5	3.6	
		生徒の興味・関心を促すような図書を購入し、図書館の充実に努める。	年2回希望図書の購入をおこなう。	3.7	3.8	
	環境美化	掃除の徹底	学期に1回は必ず掃除箇所の点検をして掃除用具の補充を行う。	3.7	3.6	
		掃除監督の徹底	生徒会の委員会活動を利用して掃除監督者との連絡指示を徹底する。	3.7	3.4	
		ゴミの分別	毎日、係の生活美化委員で整理する。	3.2	3.2	
	施設・設備	掃除用具の整備、点検	各学期ごと、最後の大掃除で整備点検する。	3.2	3.4	

平成29年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	容儀指導の徹底を図る。	定期的に容儀検査を実施して、粘り強い指導を行う。	3.5	3.5	・安易な理由での保健室利用や入室遅れ、授業エスケープが目立つ時期があった。⇒集会やクラスでの呼びかけにより現在は改善した。 ・容儀検査は予定通り年間8回実施した。生活委員による事前の呼びかけとポスターの掲示により、再検査の人数は減ってきたが、指導を受ける生徒が固定化されている。
		公と個の場面を理解して、自らの行動を律することができるようにする。	集会時の整列・身なりについて全職員一体となって指導を行う。特に、「無言整列」を強く打ち出す。	3.0	3.0	
		時間厳守指導の徹底を図るため、全職員が授業の開始時間を厳守する。	毎授業時に行う。	2.5	3.0	
	公共心の育成	乗車マナーの向上を図るため、JRおよび島鉄の乗車指導を徹底する。	年間5回以上の乗車指導を実施する。	3.0	3.5	・生活委員の掃除区域が変わったため、通学路と駅の清掃が1回もできなかった。 ・近隣高校と協力して、年間7回のJR乗車指導を行った。島鉄の乗車指導を行うことが次年度の課題である。
		学校周辺の商業施設での利用マナー等の指導を強化する。	定期的に巡視等を行い、全職員で情報を共有する。	3.0	3.5	
	生活委員会の充実	挨拶の励行を図るため、職員・生徒が一体となり挨拶運動を推進する。	考査期間中、生活委員と共に登校時の「挨拶運動」をおこなう。	3.5	4.0	・特別指導は12名。※昨年は10名 【次年度の取り組み】 ・携帯電話持ち込みペナルティの見直し ※1か月の預かり指導は長すぎるとの指摘
		駐輪場の整理整頓および安全確認に努める。	生活委員で駐輪場の整理整頓、二重ロック励行の呼びかけを行う。	3.0	2.8	
	分掌・学年等との連携	生徒の実態把握と理解を深めるため各学年・分掌との連絡を密にし、指導の強化を図る。	各学年主任・分掌主任と情報を共有する。	3.0	3.5	・アルバイトに関する内規の改定 ※現状に合わせて書き換える ・「生徒必携」に自己管理に取り組むページを作る。
		学年・分掌と協力して、リーダーの育成を図り、生徒の自主性を育む。	リーダー研修合宿、体育祭・文化祭において、学年・生徒会と連携して実施する。	3.5	4.0	
	進路指導部	学習の定着と基礎学力向上	・進路希望調査実施と学力向上につながる補習・学習会・模試の実施	・進路希望調査を年3回実施 ・モートレ、補習、模試の有効活用、夏季学習会と冬季学習会の実施 ・各学年・教科と連携をとり、学力検討会を実施 ・学力検討会を3回、志望校検討会を2回実施	3.0	3.4
・進路実現のため全職員による進路体制の確立			3.0		3.2	
・モートレ、補習、土曜日・長期休業中の学習会で学習習慣の定着			3.0		3.2	
個々の進路意識の高揚		・学年・進路別集会、進路講演会・進路ガイダンスの開催	・講演会やガイダンスを学年ごとに年2回開催 ・小論文・教科の添削指導 ・受験前に5回以上の模擬面接 ・進路説明会・職場見学への協力	3.5	3.4	・高等看護学校19名、准看護学校3名が合格した。看護希望者全員が希望の看護学校への進学ができた。 ・大学進学は、国公立大学に4名が挑戦したが、長崎県立大学1名の合格となった。 ・医療系専門学校をはじめとした専門学校は、全員が合格した。 ・長崎高等技術専門学校希望者は学力不足による不合格者が出た。基礎学力不足を早めに補うことが肝要。
		・2年次でインターンシップを実施し、職業観を育成		3.8	3.8	
		・個に応じた小論文・面接・教科指導等の計画実施		3.0	3.4	
		・進路希望を把握し、適切な進路情報の精選と迅速な提供		3.0	3.2	
進路情報の提供 進路室の有効活用		・『進路だより』等で情報の提供を行う。	・各クラスに進路に関する情報誌等を年6冊配布 ・ファインシステムなどにより担任に学期に1回資料提供 ・「進路だより」の年5回以上発行 ・定期的な資料の更新と掃除の徹底	3.8	3.8	・来年度、2クラス定員の3クラス体制となる。モートレをはじめとした進路指導について、さらなる改善と集中と選択が必要度と考える。
		・模試データ等を分析し、学年や教科と情報の共有・有効活用		3.0	3.0	
		・進路室のデータの系統的整理整頓		3.5	3.2	

平成29年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
生徒会指導部	自治能力の育成	リーダー研修、総務委員会を行い生徒の自主性を育む。	随時	4.0	4.0	年2回のリーダー研修を実施した。学校のリーダーとして自分で考え主体的に動く生徒の育成に努めた。
	活動の活性化	挨拶を励行し、生徒会スローガンの実現へ向けた取り組みを行う。	生徒会総務で年5回以上の挨拶運動を行う。	4.0	4.0	3学期の始業式で普段の挨拶や授業の開始・終了の挨拶の向上を呼びかけた。授業開始・終了の挨拶が良くなった。今後も継続して挨拶に力を入れていく。
		各行事がより活性化するように内容を工夫し、スムーズな運営に努める。	行事の一週間前までに要項を作成し、生徒への周知を行う。	4.0	4.0	生徒会総務を中心にスムーズな行事運営ができた。
		各種委員会において、具体的な活動内容を定め、各分掌と連携しながら取り組む。	学期毎に委員会の目標・活動内容を教室掲示し、必要に応じ全校集会等で周知する。	3.0	3.0	2・3学期の委員会活動の方針や取り組みなどについて、全校集会等で生徒がアナウンスする場を来年度は作りたい。
		入部状況の調査を定期的に行い、各学年と連携して、無所属生徒の部活動編入の場を設ける。	4月、9月、1月に実施。	3.7	3.7	年度途中に部活動に参加しなくなった生徒の把握ができていなかった。
		県高総文祭へ向け、他校生徒との交流を図り大会を成功させる。	随時	3.7	4.0	分科会のリーダーとして他校の生徒と関わり、感動的な県高総文祭をつくることができた。
	活動等の見直し	部室の使用状況を定期的にチェックし、部室を適正に使用するよう指導する。	年間5回部室の清掃を行い、カギの返却状況をチェックする。	3.0	3.0	日々の部室のカギの返却状況をチェックできていない。
会則・内規・申し合わせ事項の運用状況を確認し、必要に応じて見直しを図る。また、長期的な展望に立って生徒会予算を編成する。		2学期終了までに部内で検討を行い、3学期の部顧問会・職員会議に諮る。		3.7	生徒数減に伴う予算や行事の見直しを継続的に行っていく必要がある。	
保健相談部	規則正しい生活習慣の確立	自己管理能力の具体的な手だての実施	『保健便り』を年間9回発行し、啓発する。	3.8	4.0	・新学習指導要領に明記される、合理的配慮・個別の指導計画・個別の教育支援計画・通級に関する研究と研修を行う必要がある。 ・SCによる面談の報告を守秘義務を守りながら適切に活かす工夫が必要である。 ・来年度の新入生から知的能力の検査を含むテストバッテリー検査に変更する。
		健康診断の事後指導の徹底	該当生徒の保護者への連絡を徹底する。	3.8	3.8	
	安全で衛生的な教育環境の整備	救急の場合の円滑な生徒への対応の実施	校医との連携をスムーズに行い安全面の強化を図る。	3.8	3.8	
		安全衛生に対する知識と理解の深化	安全衛生委員会を2回開いて、問題点の解決を図る。	3.7	3.7	
	学校生活への適応援助活動の徹底	来談生徒への受容的態度の徹底、心を開く環境作りの整備	来室しやすい相談室となるよう心掛ける。	3.8	3.8	
		不適応生徒の早期発見・支援	日頃から担任・学年との情報共有をはかる。	3.7	3.5	
		いじめの予防・解消、各種調査の実施と分析	いじめ・悩み調査を年5回実施し、迅速な発見と対応をはかる。	3.8	3.8	
	各分掌・学年・スクールカウンセラー・保護者・中学校・外部機関	生徒理解のための心理テストの実施と活用	内田クレリン・MG性格検査の報告会を、1・2学年に1学期中に実施し、検査結果の活用をはかる。	3.8	3.8	
		スクールカウンセラーや担任・学年との連携の強化	日頃からスクールカウンセラー、養護教諭、担任・学年との連携を密にし、情報の共有をはかり、適切かつ迅速な対応を行う。	3.9	3.9	
	地道で円滑な奨学金の運営	事例研究等をすすめる、職員の共通理解を深化させる職員研修の実施	A T合格発表後、中学校訪問を実施し、新入生に対する適切な支援・指導に役立てる。中学校訪問報告や事例研究を含め職員研修を年間3回行う。	3.8	3.8	
各種奨学金の紹介、手続きの徹底		必要に応じて、生徒・保護者への説明会を行う。	3.8	3.8	・日本学生支援機構の予約奨学生度については、第3学年担当にお願いしている。	
教育活動の土台としての人権教育の推進	生徒の自尊感情・思いやりの心の育成	2学期に講演会を実施する。適宜、機会をとらえて集会などで呼びかける。		3.8		

平成29年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等	
事務部	組織的取組の推進	・学校窓口としての認識（丁寧な来客・電話対応等）	随時	4.0	4.0	・老朽化している設備等が多いので、日頃の清掃・点検を引き続き実施していく。 特に、清掃は設備等を安全に使用する上で重要であることを職員・生徒へ周知していく。	
		・教育行政の円滑化（県教委・校内とも早期の報告・連絡・調整）	随時	3.8	3.8		
	予算執行の適正化	・長崎県財務規則に則った計画的かつ適正な予算執行に努める	随時	3.8	3.5		
	施設設備の改善	・長期的展望と生徒の目線に立った改善に努める	月に1回以上安全点検を行う	3.8	3.5		
	環境美化（対策）	・節電・ゴミの減量化・分別を教職員・生徒とともにタイアップして推進する。	適宜行う	3.8	3.3		
1学年	命を重んじる豊かな心の育成	生徒理解を十分に行うとともに、生徒に関する情報の共有を図る。	日常的な情報交換を図るとともに、すべての生徒に関する情報を年3回定期的にまとめて、共有する。	3.0	3.4	支援を必要とする生徒への対応に対し、当初足並みの乱れがみられた。今後一層の情報の共有化と、指導の統一性が必要である。	
		計画的な個人面談や日常的な声かけを積極的に行うことにより、生徒と教員の心の交流を図る。	計画的な面談を各学期に最低1回は実施する。	3.0	3.0		
		学校行事や部活動を通して、様々な人間関係を経験させ、他を思いやる心、感動の心を育む。	学校行事や部活動にすべての生徒が積極的な関わりを持つようにする。	3.0	2.9		
	学力の向上と進路の実現	生徒が意欲的に取り組む授業を展開する。	すべての授業で取り組む。	3.0	3.1		提出物の習慣はある程度身につけてきたが、自主的に学習する態度までは到達していない。
		家庭学習の習慣化を図るため、宅習ノートや教科の課題を確実に提出させる。	未提出者は必ず放課後に学校に残して取り組ませる。	3.0	3.0		
	生徒指導の徹底	生徒の観察に努め、きめ細やかな生徒指導を行う。	保護者や関係機関と連携して生徒指導に努める。問題行動の発生時には即座に対応する。	3.0	3.5		人間関係をうまく構築できない生徒が多く、長期欠席してしまう。人も気持ちの汲める生徒を目指し、指導していきたい。
		出席を大切に指導に努め、年間皆勤賞、年間無欠席賞を設けて年度末に学年で表彰する。	半数以上の生徒が無欠席であるようにする。	3.0	2.6		
		生徒の学校生活への主体性と考える力の育成を目的として高校生活全般について、向上案を生徒から募集し、採用案は実現を支援する。	優秀者は学年で表彰し、採用案を情報発信する。	2.0	2.3		
	学校組織力及び教職員の資質の向上	アクティブラーニングの研究実践に取り組む。	公開授業期間に相互に授業を見学し、授業協議会を開く。	3.0	3.5		各教室にICT機器が整備され、その利用について少しずつではあるが進歩がみられた。
		教職員の意思疎通を一層密にして組織力の向上を図り、学年・学級経営の工夫、改善に努める。	日常的な情報交換に努め、職員朝会後の学年会を短時間でも効率化され充実されたものにする。	3.0	3.0		

平成29年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
2 学年	命を重んじる豊かな心の育成	計画的な個人面談を行い、生徒との心の交流、生徒情報の職員間での共有を図る。	日常的な情報交換を図るとともに、すべての生徒に関する情報を年3回定期的にまとめて、共有する。	3.5	3.4	日常的な情報交換ができた。退学者がゼロだった。
		朝の読書を充実させる。	読書中の私語をゼロにする。生徒に本の紹介をさせる。	3.3	3.4	取り掛かりが悪いクラスがあった。1年次に比べ向上している。
	学力の向上と進路の実現	モチレ、定期考査前の学習会・個別指導を組織的に行い、生徒の実態把握と基礎学力の向上を図る。	すべての職員で取り組む。	4.0	3.6	モチレは力がついているか疑問。再検討を。モチレは中・上位層の引き上げに真意識の高い生徒と引く生徒の差が激しい。内容が形骸化している生徒がいる。
		自宅学習ノート（宅習ノート）を提出させ、家庭学習の習慣化と充実を図る。	未提出者をゼロにする。	3.5	3.2	
	生徒指導の徹底	インターンシップ、オープンキャンパス、修学旅行を用いた進路学習を行う。	総合的な学習、LHRの時間に計画的に行う。1回以上オープンキャンパスへ行くことを生徒に課す。	3.3	3.6	
		インターンシップや修学旅行を念頭に、「2年生の3S（Smart機敏、Steady着実、Silent静粛）」を日ごろから身につけさせる。	授業に遅れる、始まってから準備する、トイレに立つ、静粛の場で私語をする生徒をゼロにする。	2.5	2.8	授業が始まってから準備する生徒が減らない。
		授業の始まりのあいさつをきちんとさせる。	年度の前半と後半に礼法指導をし、点検する。	2.5	3.0	
	学校組織力及び教職員の資質の向上	安全で清潔な学習環境づくりに努める。	出席簿の未記入ゼロ、公共物の破損をゼロにする。	3.0	2.6	出席簿の記入ができていなかった。注意指導したガラス等の破損が3件あった。
		相互に授業を見学し、授業や生徒の様子について話し合う。	公開授業期間に行う。	3.0	3.0	
		教職員の意思疎通を一層密にして、学年・学級経営の工夫、改善に努める。	日常的な情報交換に努め、職員朝会後の学年会を短時間でも効率化され充実されたものにする。	3.8	3.8	日常的な情報共有、対応の共有ができた。職員室での情報交換が多く、働きやすかった。
3 学年	命を重んじる豊かな心の育成。	清掃活動の徹底。掃除の時間は監督教員は常時担当区域につく。	普段からの清掃活動、整理整頓。ロッカーの上の私物0、放課後の机・椅子の上の物品0。	3.1	3.4	一部さぼる生徒がいたが、全体的によかった。当番は月当番がよい。
		命の尊さや個人の尊厳を重んじる、心の教育を推進することを目的として「東治」を実施する。	年間8回の実施。	3.6	3.9	真剣に取り組んでいた。
		挨拶の励行、目上の人に対する言葉遣い、適切な表現力を身につけさせる。	日常的に指導する。	3.4	3.1	個人差が大きい。
	学力の向上と進路の実現	受験に対応するために生徒の学力に応じたモチレ、学習会、個別指導等を行う。	目標進路実現、結果として100%、問題は質の向上。	3.4	3.7	課題は提出するが、家庭学習の習慣がついていない。
		家庭学習の習慣化を図るため、宅習ノートの提出を徹底させる。	毎日点検を行い、未提出の者は放課後居残りさせて提出させる。	3.3	3.6	一部解答を写すだけの生徒がいたが、提出状況はよかった。
		生徒に適切な進路情報を提供し、進路に対する意識を高めさせ、目標とする進路実現の一助とする。	個人面談を2回以上実施し、生徒の情報は学年で共有する。必要な面談は機を逃さずに行う。	3.3	3.7	クラス全員で進路目標を達成しようという良い雰囲気があり、お互いに励まし合いながら頑張っていた。
		担任会を時間割の中に組み込み、生徒の情報交換を絶えず行う。	毎週1回は設定する。	3.3	3.7	
	生徒指導の徹底	清潔で端正な身だしなみをさせる。	容儀検査で指導される生徒を10人以下にする。	2.9	3.2	大きな乱れはないが、指導される生徒が固定していた。
		生徒の生活面について保護者との連携を密にする。	欠席、遅刻、早退などは確実に連絡を取る。気になる点は早期に連絡する。	3.4	3.7	
		最高学年としての自覚を持たせ、社会性のある生徒を育てる。時間厳守を習慣づける。	皆勤10名以上、年間無欠席40名以上。	3.1	3.0	一部指導効果のない生徒がいたが、学年全体としては落ち着いたよい集団に育った。
教職員の資質の向上	規則正しい生活を送らせ、安易な欠席を減らす。	学年の年間出席率99%以上。	3.1	2.8		
	アクティブ公開授業週間での公開授業	公開授業期間に相互に1回は見学する。	2.6	2.8		